

令和6年度小児・AYA世代がん診療に関する医療機関実態調査結果

1 調査概要

小児がん患者さんとそのご家族及び小児がん経験者の方が可能な限り慣れ親しんだ地域で治療や支援、長期フォローアップが受けられる環境の整備を検討していくための基礎資料として、県内の医療体制の実態を把握するための定期的な情報の確認と更新として、平成27年度、平成29年度、令和元年度、令和4年度の計4回にわたり調査を実施した。

本調査は第5回目の調査となり、病院28施設、診療所14施設に調査を実施した。

なお、調査結果については、資料1が病院、資料2が診療所の結果である。

(1) 調査目的

県内の小児・AYA世代がん診療における医療体制の実態把握

(2) 調査対象

診療所14施設（別添対象医療機関一覧のとおり）

※下記に該当する県内医療機関

○千葉小児整形外科グループ施設

○医療情報ネット「ナビィ」/目的別検索/小児悪性腫瘍/該当医療機関

(3) 調査期間

令和7年2月

(4) 調査方法

FAXまたはメールにより回収

2 調査結果

【回答状況】 8施設 回答率57.1%（※各設問に対する公開数は下記のとおり）

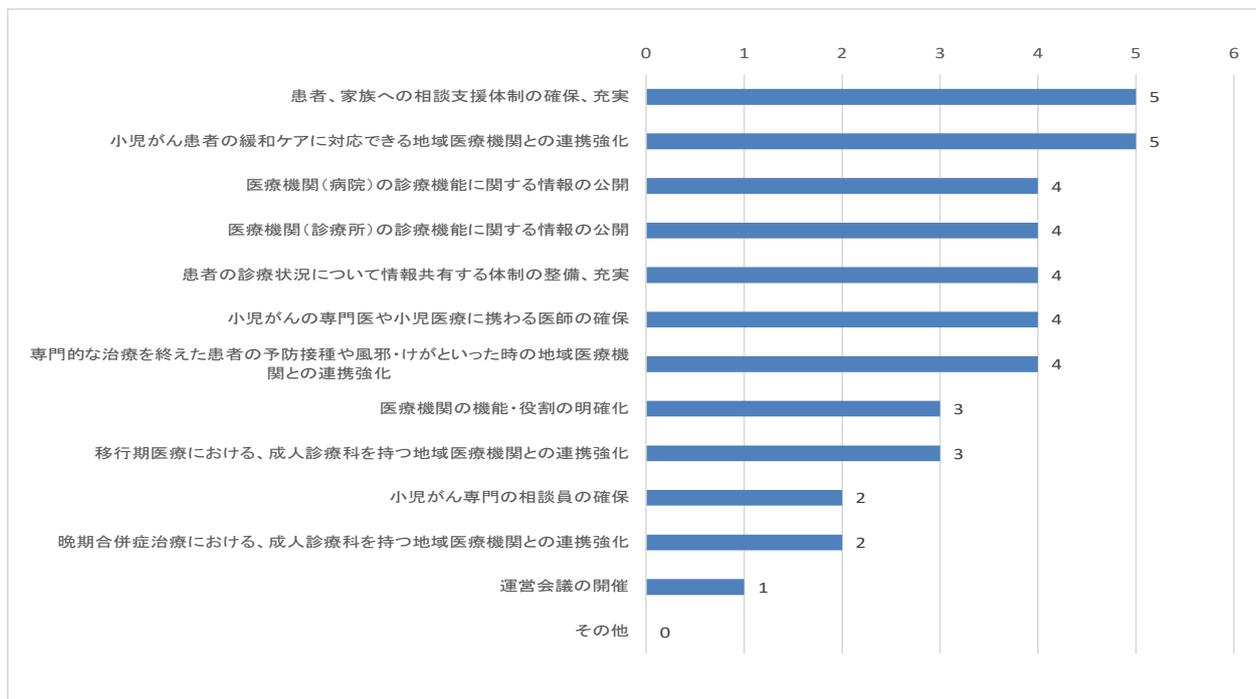
	問2	問3
施設名を含め公開	6	2
施設名を除き公開	6	2
非公開	0	0

【 診 療 所 】

【問2 地域との医療連携について】

○専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがといった時の診療について、自施設で何らかの診療が可能と回答した7施設のうち、予防接種の対応施設は6施設、風邪等の内科的症状の診療施設は6施設、けが等外科的治療の対応施設は2施設であった。その他歯科治療等の診療施設は1施設、小児期から成人期への移行期医療は4施設、成人期における晩期合併症治療は3施設が診療可能と回答している（別紙1）

【問2 地域医療機関と連携した小児がん診療を行うために必要と思われるもの】（複数回答可）



○最も多かったのは「患者、家族への相談支援体制の確保、充実」「小児がん患者の緩和ケアに対応できる地域医療機関との連携強化」が5件、ついで「医療機関（病院）の診療機能に関する情報の公開」「医療機関（診療所）の診療機能に関する情報の公開」「患者の診療状況について情報共有する体制の整備、充実」「小児がんの専門医や小児医療に携わる医師の確保」「専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがといった時の地域医療機関との連携強化」がそれぞれ4件であった。

【問3 地域との医療提携（緩和ケア含む在宅医療）について】

○専門的な治療中の、緩和ケア提供含む在宅医療に対応している地域医療機関との連携について、「連携実績がある、もしくは連携できる可能性がある」と把握している医療機関があると回答のあった5施設のうち、「自院が所在する市町村」が5件、「隣接する市町村」が3件、「左記以外の市町村」が3件であった。

【 診 療 所 】

3 調査結果の公表

県ホームページにて公表する。